

平成7年7月11日～12日の梅雨前線豪雨による災害

平成7年7月11日～12日にかけての梅雨前線豪雨は、長野県北部に大きな災害をもたらしました。土尻川砂防事務所管内では小川村を中心とする付近一帯で山腹崩壊による土石流や地すべり等の土砂災害が多発しました。14 溪流で土石流が発生して約 50 万立米の土砂が流出し、8 箇所で大規模地すべりが発生したことから、全壊家屋 12 戸、半壊家屋 1 戸に及んだほか 108 世帯 257 人が避難するという大災害でした。



上小内郡小川村中牧 平成7年7月23日撮影

県北部豪雨 地滑り中条など厳戒

小川村地滑り多発

十三日午前十時過ぎ、上部の集中豪雨で増水した土水内郡小川村夏和で、県北一尻川に山の斜面が百何ぼ



裏山が崩れ、押しつぶされた民家(13日午前11時、上水内郡小川村 奈良尾)

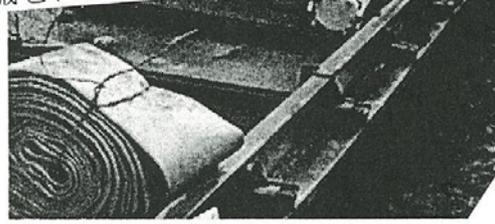


の高さから崩れ、川をせき止めた。重機で川を埋めた土砂を掘削し流れを確保したが、土砂が再び崩れる恐れもあり、川に隣接した水田に急ぎよバイパス水路を設け、警戒を続けている。同村では、十二日昼ごろから十三日にかけて地滑り

深層地滑り 注意が必要

信大教育学部の赤羽貞幸助教(地質)は十三日、上水内郡小川村の地滑り現場を訪れ、「大雨による表層の地滑りだが、今後雨水が深い層まで浸透していくと、新たな地滑りが起きる

可能性があると考えられ注意が必要」と分析した。十二日午後から夜にかけて数万立方メートルの土砂が崩れ、数宅四戸を全壊した奈良尾地区。高さ百何ぼの尾根筋に近いくらから地肌がむき出しになっているが、斜面の形が比較的残っているところから、同助教は「表層に近い土砂が滑った」と判断。中牧地区などの地滑り現場も回り、「いずれも表層の地滑りだろう」とした。そのうえで、集中豪雨だったため雨水はまだ地表近くにたまっており、深い層に浸透していくのはこれからと説明。「動く地層が深いほど地滑りは大規模になるので、雨は小康状態とはいえ、今後、注意、警戒を緩めないようにしてほしい」



1階が土砂で埋まり 2階から日用品などを運び出す様子

小川村 地滑り 186人が避難

警戒 避難

金消防団に出動し、一時緊張した。境の園が地滑りで取り残された約百五十人の救出が可能になり、小谷温泉へ発電機やコンプレッサーなどを運搬した。午後から復旧現場へは重機が



上水内郡中条村成山で発生した地滑りの最上部、県道信州新・中条線(14日午後3時) (C)

十四日未明からの雨で地滑りや土砂崩落が起き、再び緊迫した県北部は、同日午後になって晴れ間が出、復旧工事や救援活動は再開した。長野地方気象台は午後六時四十五分、県下に出していたすべての注意報を解除。一方、上水内郡中条村の地滑り現場などでは厳戒態勢が続く。避難指示・勧告は上水内郡小川村、北安曇郡小谷村など、なお十市町村で継続した。県によると、避難者は九百八十五人となっている。

の軽油を運んだ。一方、石坂地区で新たに高さが約百五十メートルのけがけ崩れが発生、池原や沢入ではけがけ崩れなどの恐れもある。上水内郡豊野町川谷の国道18号のり面が崩落した。馬居川は水位が低下、日影地区の避難住民はすべて自宅に戻った。長野市吉田の浅川の水位も下がった。しかし、最大幅三百メートルの地滑りで土砂が尻川に流入した上水内郡中条村、長野市広瀬の山腹崩落現場では、地元消防団などが監視を続けている。下水内郡豊田村上今井荒山でも地滑りが発生、村は三世帯十一人に避難勧告した。停電は、小谷村、小川村、信濃町で百九十七戸、断水は小谷村約三百五十戸などで続いている。

しかし、砂防堰堤が整備されている溪流では、上流からの土砂を堰堤がせき止めたことから下流への被害を軽減することができました。



▲北尾地すべりと既設ダムによる土砂流出防止状況



▲既設ダムと土砂埋そく状況



▲河道埋そく湛水状況

